

実習日：平成 28 年度第Ⅱ期 11 月 2 日

実習先：大分三愛メディカルセンター

大学名・学年：九州保健福祉大学 5 年

氏名：岐部このみ

大分ゆふみ病院での実習では、独立型ホスピスでの薬剤師の業務について学びました。薬剤師の業務は基本的には調剤、監査、服薬指導と一般病院の薬剤師と変わりませんでした。しかし、業務を行う中で大きく異なると感じた点は、その目的の違いでした。一般病院では、基本的に疾患に対して治療を施し治癒するのが目的ですが、ホスピスでは、患者さんが日常的な生活を送るためのサポートが目的です。「大分ゆふみ病院に来る患者さんは治療をやめ、生きることを諦めた人たちが死を待つために来るのではなく、最期まで人間らしく生き抜くために来るのだ」といった内容を堀先生がおっしゃっていたように、患者さんの生活の質に重点をおいたケアであるということを感じました。“生きる”という言葉ひとつを取ってみても、長さなのか質なのか受け取り方は複数あるということに気付くことができました。

私は、大分ゆふみ病院に行くまでは、「ホスピスは死を待つための場所だ」という暗い印象を抱いていました。しかし、実際の現場を見てみると、「残された“今”をもっとも自分らしく生きている」ような、とても前向きな印象を受けました。私は将来、一般病院で勤務したいと思っています。やはり、患者さんが少しでも長く生きられるように、疾患に対して治療が行える環境に居たいと思うからです。しかし、寿命を引き延ばすことだけが患者さんのためにはならないこと、患者さんの“生きたい”という意味は、どのように受け取るべきかということ、医師や看護師ではないからこそ、些細なメッセージにも気付いてあげられる薬剤師になりたいと思いました。